

障がい者の舞台芸術表現・鑑賞に関する実態調査

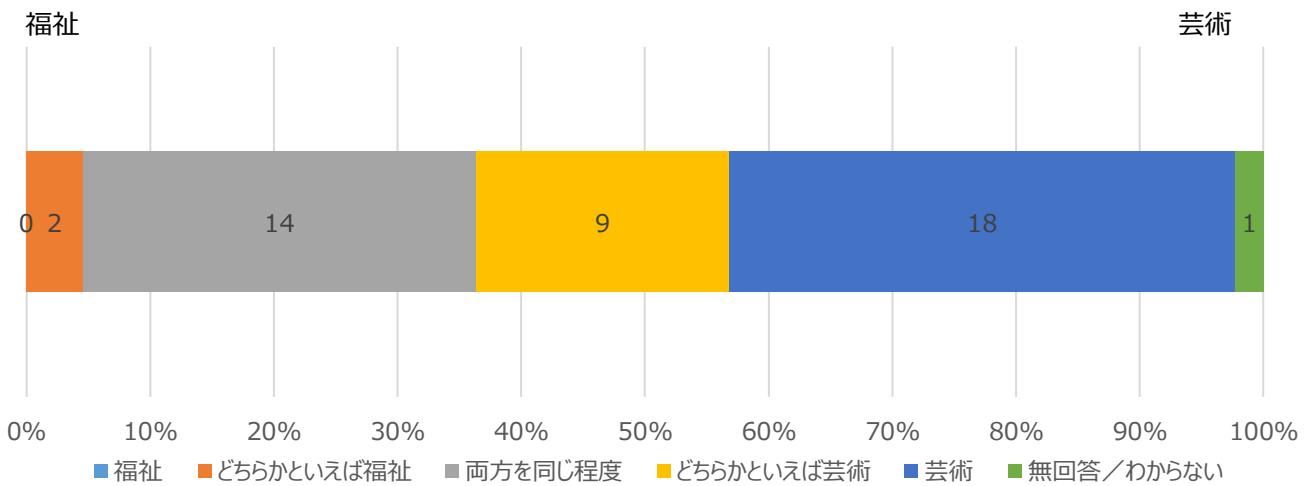
C 実演団体 アンケート集計・分析（詳細版）

調査対象 障がいのある人々とともに舞台芸術作品を制作し、不特定多数の観客に向けた公演活動を行っている全国の団体
 （子どもが主たる活動参加者である場合を除く） 60 団体
 調査期間 2017年9月6日（火）～9月26日（月）
 調査方法 趣旨をメール・電話で説明のうえ、調査票をメールまたは郵便で受発信
 有効回答 44 件
 回収率 73.3%
 分析者 日本財団パラリンピックサポートセンター パラリンピック研究会 上級研究員 佐藤 宏美

I 障がいのある人が参加する表現活動について

1. 活動の分野に関する意識

I Q 1. 貴団体の活動について、「福祉」と「芸術」のどちらを強く意識していますか。



（全編を通じて、特に記載のある項以外の有効回答数：44）

2. 活動ジャンル・形態

I Q 4. 活動のジャンルについて教えてください。（複数回答可）

	件数	割合	詳細
ダンス／舞踊	21	47.7%	コンテンポラリーダンス(7)、車いすダンス(4)、即興ダンス(2)、社交ダンス(2)、即興パフォーマンス(1)、ストリートダンス(1)、インクルーシブダンス(1)、フリーダンス(1)、手話パフォーマンス(1)、競技ダンス(1)
音楽	15	34.1%	太鼓(9)、楽器(5)、歌(5)、即興音楽(2)
演劇	14	31.8%	
ミュージカル	5	11.4%	
伝統芸能	3	6.8%	狂言(2)、神楽(1)、能(1)
人形劇	2	4.5%	
演芸	1	2.3%	
その他	1	2.3%	サーカス(1)

I Q 5. Q 4 で選んだ活動の形態はどれですか。（複数回答可）

	件数	割合
上演（*）を目的とした作品づくり	34	77.3%
ワークショップ	17	38.6%
サークル、余暇活動	13	29.5%
レッスン、教室（発表会を含む）	11	25.0%
その他	3	6.8%

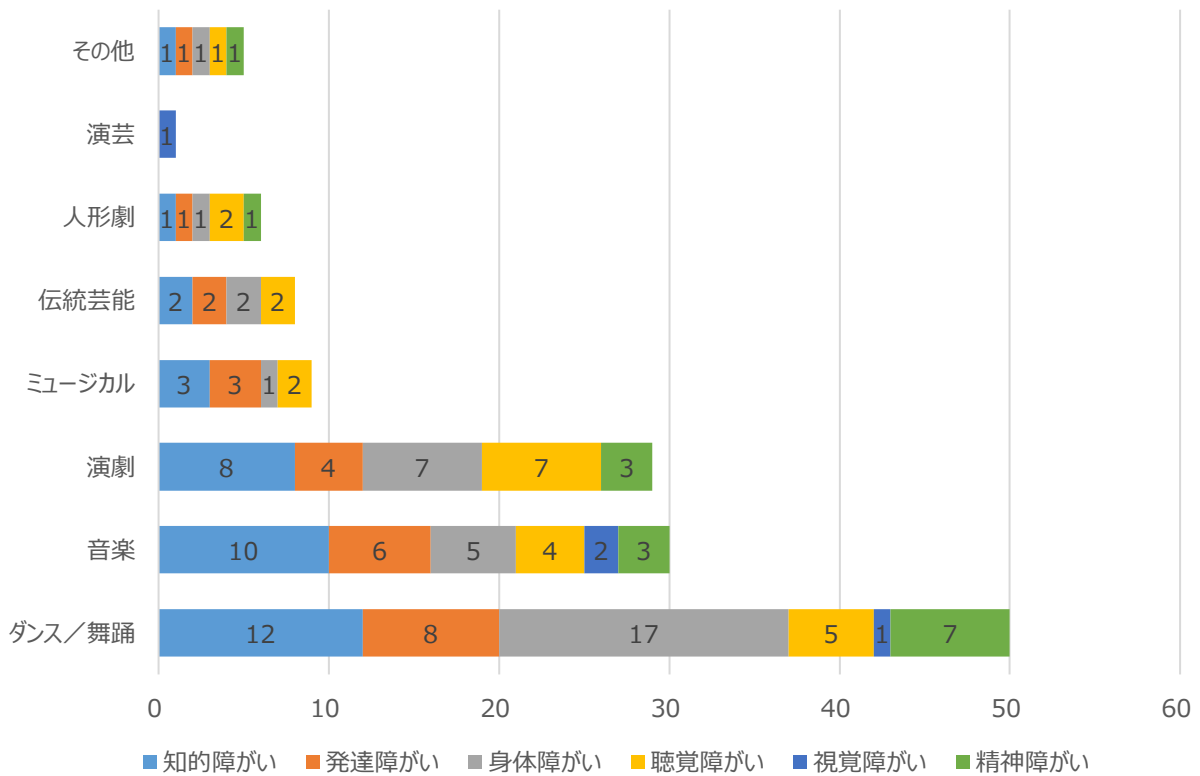
（*上演とは、部内の関係者や家族のみを観客とする発表会等を除きます。以下、同。）

3. 参加者の障がい種別

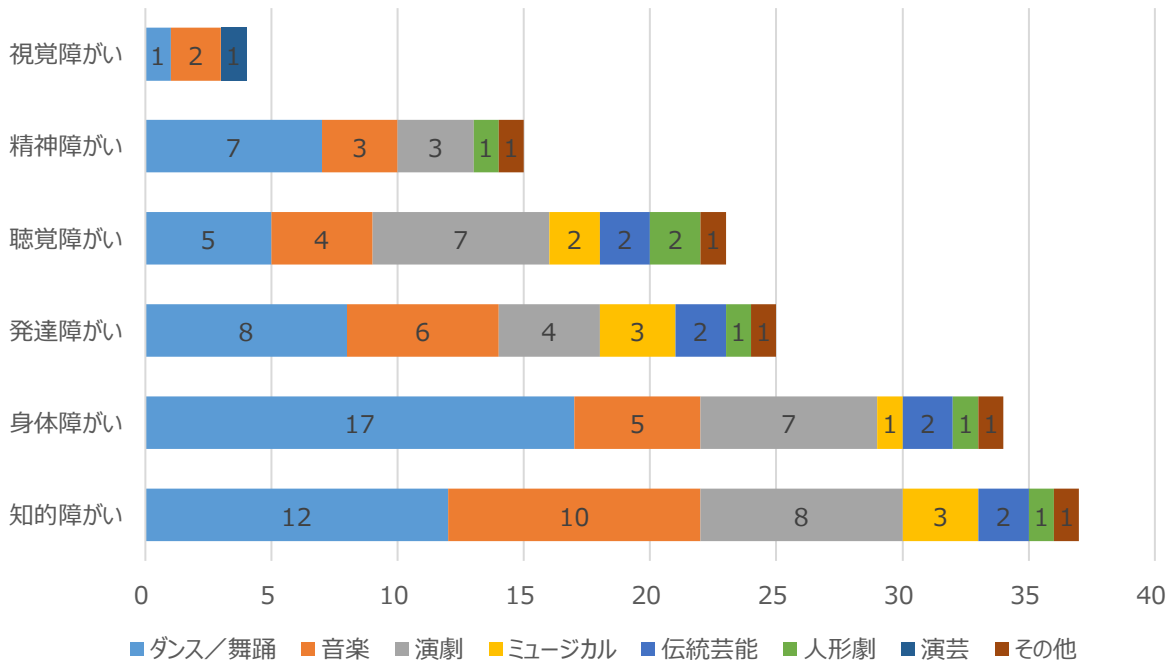
I Q 3. 参加者の障がい種別について教えてください。（複数回答可）

	件数	割合
知的障がい	28	63.6%
発達障がい	17	38.6%
身体障がい	23	52.3%
聴覚障がい	14	31.8%
視覚障がい	3	6.8%
精神障がい	10	22.7%
その他	0	0.0%

障がい種別（IQ4）と活動ジャンル（IQ3）のクロス集計

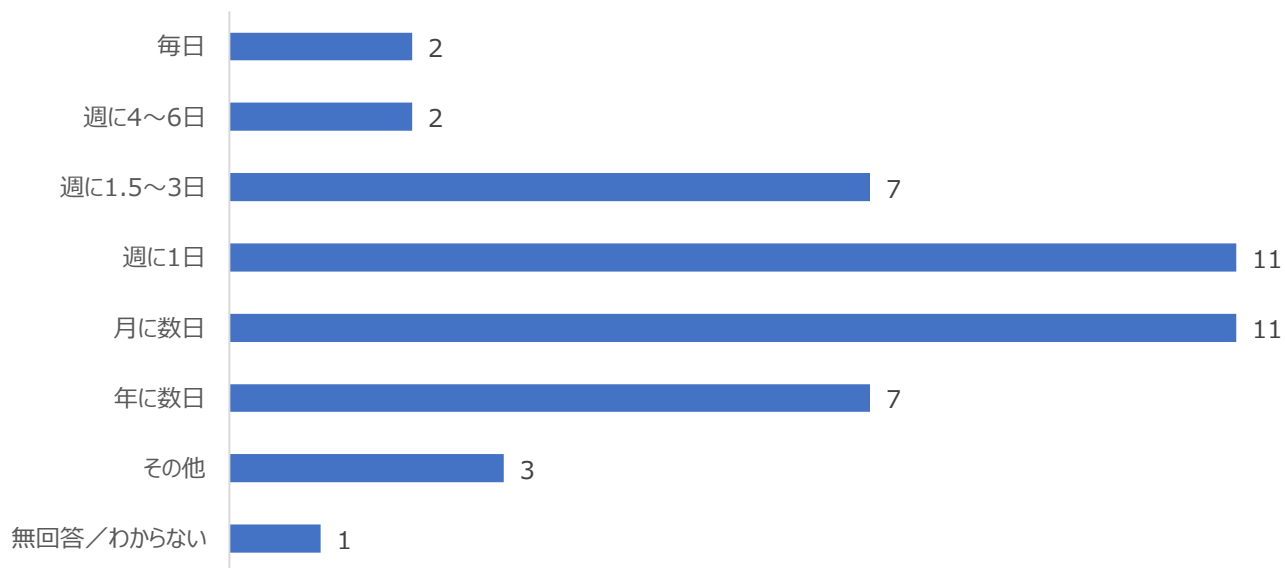


活動ジャンル（IQ3）と障がい種別（IQ4）のクロス集計



4. 活動頻度

I Q 6. 日ごろの練習活動の頻度を教えてください。



I Q 7. 2015 年度の一年間に何回、障がいのある人が参加する舞台芸術作品を上演しましたか。

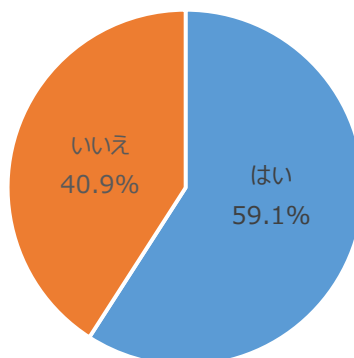
	件数	割合
0回	6	14.0%
1~5回	21	48.8%
6~10回	4	9.3%
11~15回	2	4.7%
16~	10	23.3%
無回答/わからない	1	2.3%

最少	0
最多	94
平均	11.5
中央値	3

5. 日常的な活動場所

I Q 2. 日常的に舞台芸術活動を行う場所について

I Q 2 -1. 活動を行う場所をもっていますか。



→Q2-1 で「(2)いいえ」と答えた方

I Q2-2. どこを借りていますか。（複数回答可）

	件数	割合
地域の公共文化施設	12	66.7%
福祉施設（自治体以外の地域支援センター、作業所など）	5	27.8%
地域の民間文化施設（民間経営の音楽教室など）	5	27.8%
教室、スタジオなど	3	16.7%
学校	2	11.1%
その他	0	0.0%

（有効回答数：18）

6. 情報発信手段

I Q8. 活動に関する情報発信の方法を教えてください。（複数回答可）

	件数	割合
チラシ、ポスター	33	75.0%
ホームページ	31	70.5%
口コミ	30	68.2%
SNS（フェイスブック、ツイッターなど）	26	59.1%
新聞、情報誌、ウェブマガジンなど外部の媒体	21	47.7%
ダイレクトメール、メーリングリスト	20	45.5%
テレビ、ラジオ	14	31.8%
その他	7	15.9%

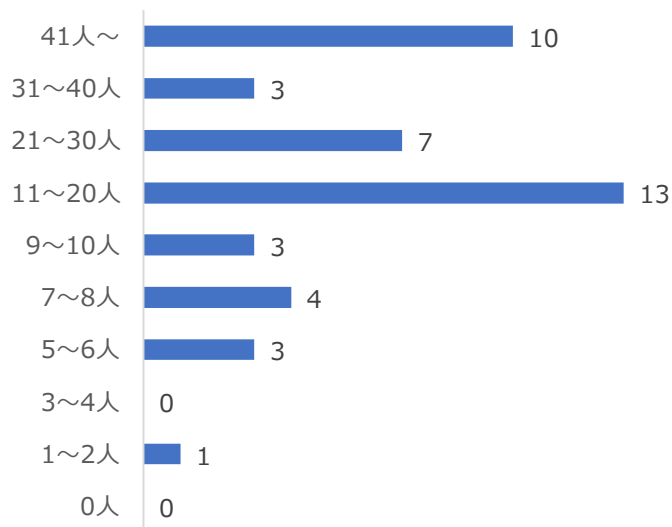
I Q9. 外国語でどのように情報を発信していますか。（複数回答可）

	件数	割合
ウェブページをつくっている	2	4.5%
SNS で発信している	1	2.3%
その他	6	13.6%
外国語で発信を行っていない	36	81.8%

7. 活動者数

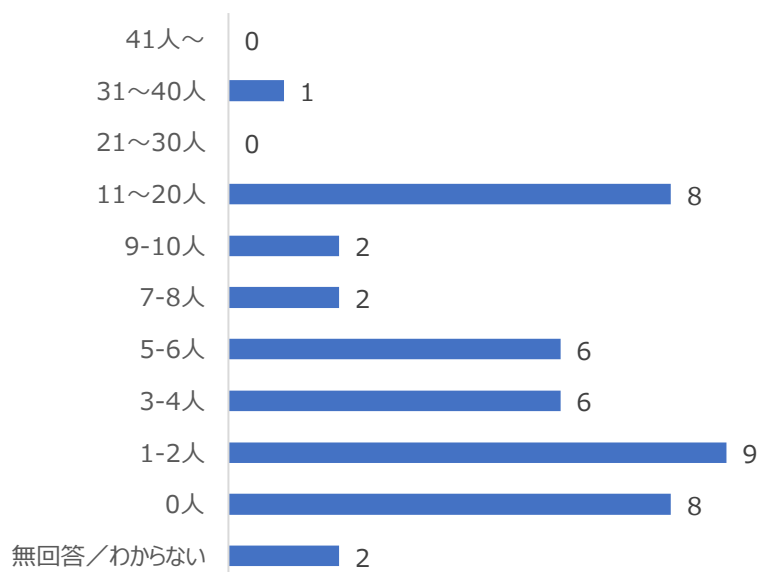
I Q10. 活動に携わる人について教えてください。

I Q10-1. 活動に携わる人は全部で何人いますか（アーティスト、指導者、運営者、支援者など。障がいのある人を含む）。



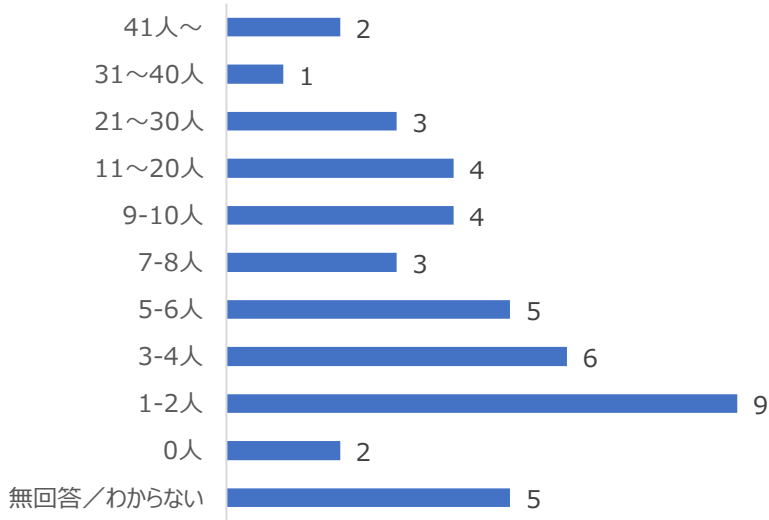
最少	1.0
最多	280.0
平均	32.3
中央値	20.0
標準偏差	42.7

I Q10-2. フルタイムで携わる人は何人ですか。



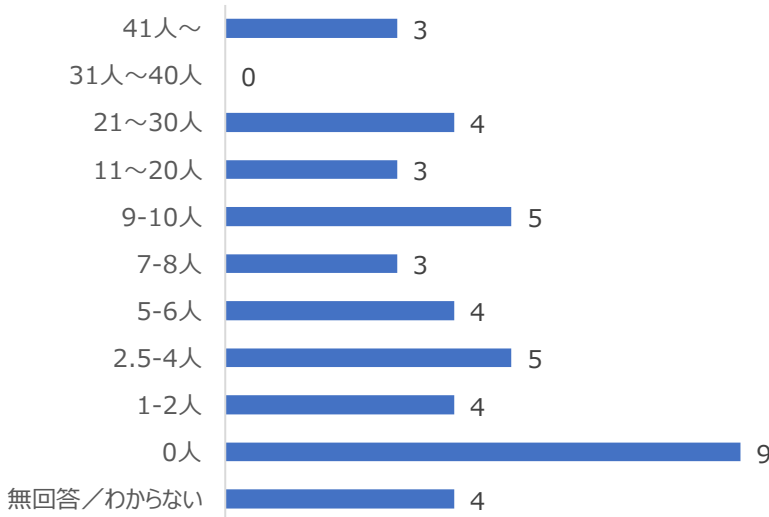
最少	0.0
最多	39.0
平均	6.6
中央値	4.0
標準偏差	8.1

I Q10-3. フルタイム以外で、恒常的に携わる人は何人ですか。



最少	0.0
最多	76.0
平均	10.8
中央値	6.0
標準偏差	15.0

I Q10-4. フルタイム以外で、上演の時だけ携わる人は何人ですか。



最少	0.0
最多	180.0
平均	14.1
中央値	5.3
標準偏差	29.8

8. 参加者が得たもの

I Q11. 貴団体が行う障がいのある人が参加する舞台芸術活動を通じて、障がいのある参加者がどのようなことを得たと考えますか。（3つまで回答可）

	件数	割合
達成感・充実感を味わえた	30	68.2%
自分により自信が持てるようになった	24	54.5%
表現者としての可能性に気づくことができた	22	50.0%
価値観を共有できる仲間ができた	16	36.4%
地域のさまざまな人とのつながりができた	15	34.1%
社会、地域に対して障がい者に関わる問題を提起することができた	10	22.7%
知識やノウハウが豊かになった	6	13.6%
社会・地域の一員としての意識が増した	3	6.8%
その他	5	11.4%
特になし	0	0.0%

（回答者のうち1件は5つ選択）

9. 社会的な効果

I Q12. 貴団体が行う障がいのある人が参加する舞台芸術活動は、社会的にどのような効果を生んだと考えますか。（3つまで回答可）

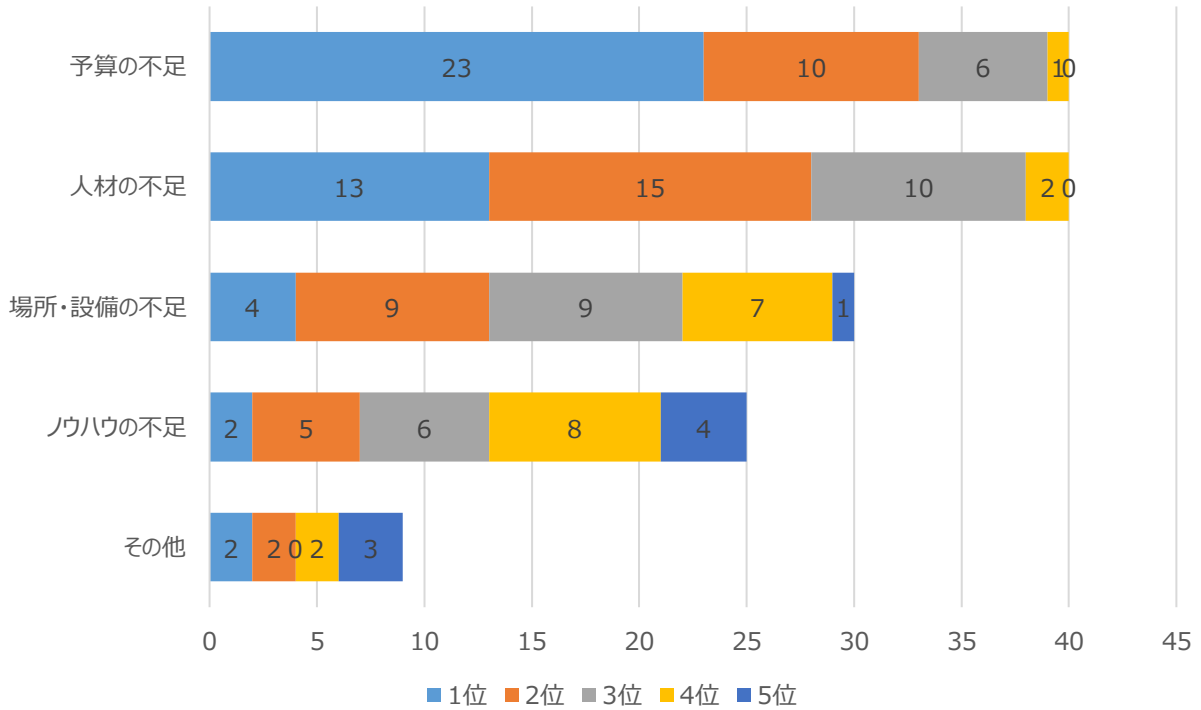
	件数	割合
障がい者に関わる問題について、社会の関心を集めることができた	27	61.4%
障がい者の家族など周囲の人々が、新たな可能性を見出すことができた	25	56.8%
既存の舞台芸術にはない、新しい表現方法を探ることができた	23	52.3%
芸術そのものの価値や意味を問い直すことができた	14	31.8%
今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた	11	25.0%
地域社会が障がい者に対してより友好的になった	11	25.0%
自治会やNPO等、地域の他の団体・グループの活動に何らかの刺激となった	7	15.9%
行政や社会福祉協議会等による新しいサービス開始のきっかけとなった	2	4.5%
行政や社会福祉協議会等による新しいサービス改善のきっかけとなった	2	4.5%
その他	5	11.4%
特になし	0	0.0%

（回答者のうち1件は4つ選択）

10. 活動上の問題

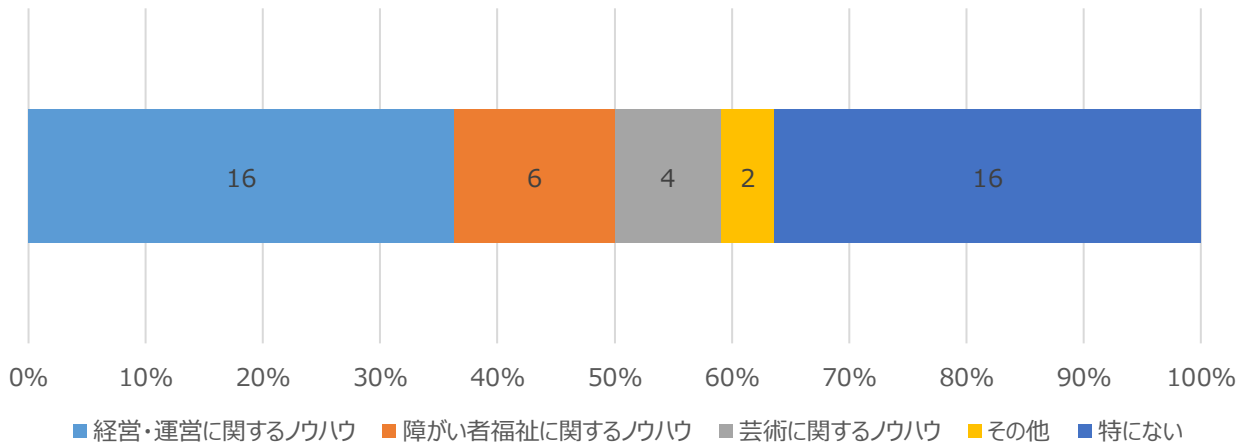
I Q13. 障がいのある人が参加する活動の問題について

I Q13-1. 活動を継続していくうえで、何が問題になっていますか。「ノウハウ」「人材」「予算」「場所・設備」「その他」について、深刻なものから順位をつけてください。該当がない順位は空欄としてください。

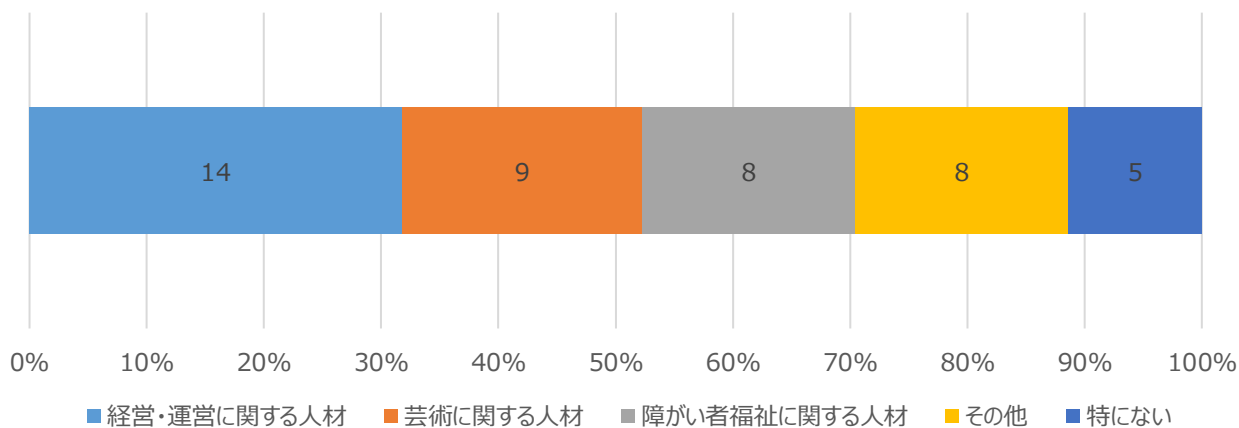


(有効回答数：1位44, 2位41, 3位31, 4位20, 5位8)

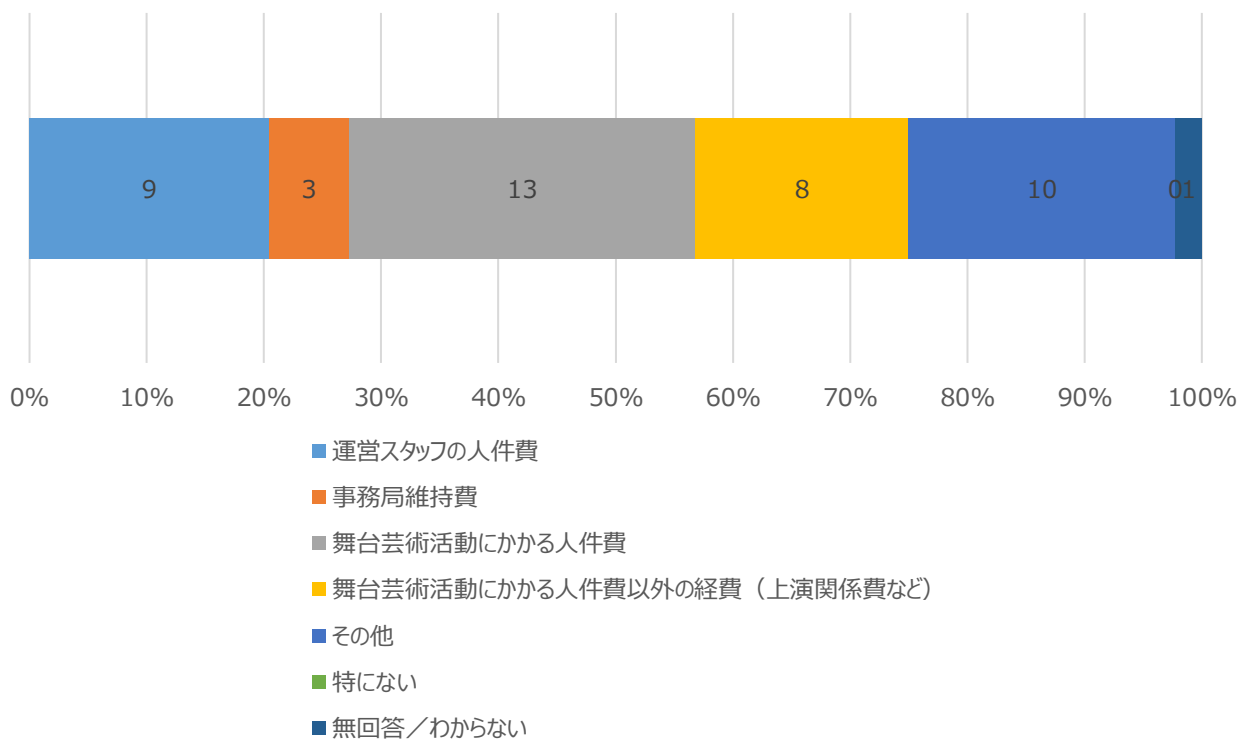
I Q13-2. ノウハウの不足に関して、もっとも深刻な課題を1つ選んでください。



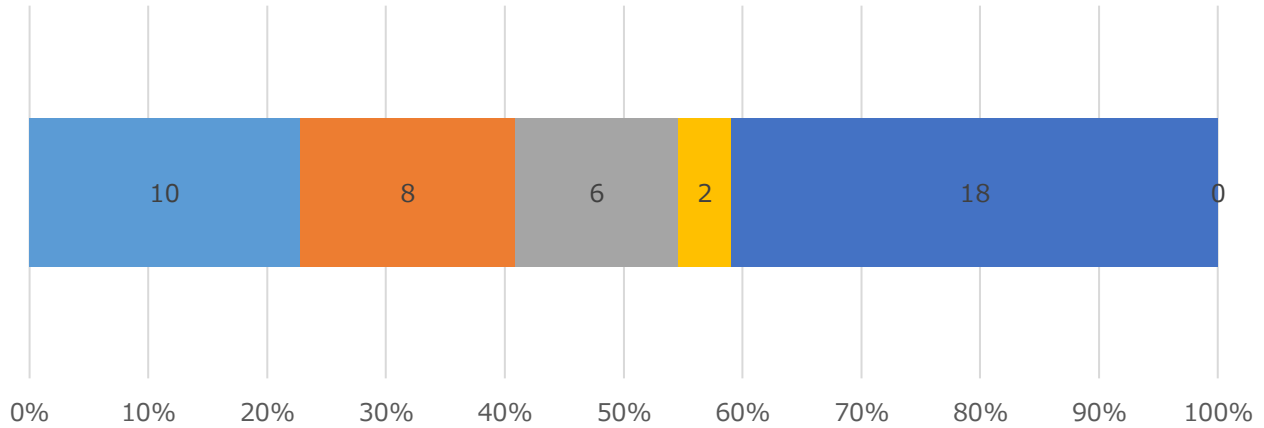
I Q13-3. 人材の不足に関して、もっとも深刻な課題を1つ選んでください。



I Q13-4. 予算の不足に関して、もっとも深刻な課題を1つ選んでください。



I Q13-5. 場所・設備の不足に関して、もっとも深刻な課題を1つ選んでください。



- 借りるための手続きに手間や時間がかかる
- 活動に適した場所が少ない
- 障がいのある参加者に必要な設備が整っていない
- 活動したい場所を貸してもらえない（障がいのある参加者がいることが理由で）
- その他
- 特になし

11. 活動上の工夫点

I Q14. 障がいのある人の表現活動参加に際して、どのような工夫をしていますか。

I Q14-1. 設備面

（主な回答を抜粋。以下、同）

空間等	20件	<ul style="list-style-type: none"> ・広めの部屋：車いす使用者が参加しやすいように ・バリアフリー、多目的トイレ ・スタジオ：段差の少ない床面/車いす利用者が寝転がれるようマット敷設/練習時から上演時同様の舞台装飾・演出 ・駐車場：家族の付き添いが多いため駐車場付き施設を借りる/無料使用の交渉 ・障がいのあるスタッフが中心となって、建物の設備(入り口やトイレ、段差等)や駐車場の有無を事前に確認
機器等	13件	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器：消音装置を付属/民間の不用品を利用/演奏が簡単な楽器 ・音響機器：PA などによるハーモニーの調整/音量の調整 ・携帯スロープ・手話通訳、UDトーク
アクセス	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー会社と契約：移動が困難な人向け ・安全性への配慮：移動時/運搬・移動時

I Q14-2. 情報面

対外発信	23 件	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ：県内の福祉施設へ送付/福祉関係者の目にとまりやすいデザイン ・継続的な情報発信/わかりやすい説明 ・福祉用語をなるべく用いない ・若手の発掘・育成のため、養護学校に対する PR
障がいに応じたツールの選択	12 件	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚情報：手話通訳者/身振りが見えるところで手話・会話/見える化の工夫、動画等による演奏振り返りや学習/稽古後に振り返りの会話/動画を撮影し共有/振付などを書き出して配布 /活動予定カレンダー ・聴覚情報：BGM や効果音を稽古の中で説明 ・情報伝達：FAX、電話、メールなど伝わりやすい手段
外部との連携	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・営業活動：他施設との交流/外部の公演に積極的に参加し口コミで広める ・プロアーティストの参加：福祉界のみでの活動にならないように
情報収集・管理	2 件	<ul style="list-style-type: none"> ・会場下見、打ち合わせ ・プライバシーの保護

I Q14-3. 人的対応面（介助者など）

専門家	14 件	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者：技術指導者として雇用 ・手話通訳者 ・介助者：スタッフ全員が医療的ケアまで可能/重複障がい・重度障がいのメンバーを OT や保育士等が対応/遠方で公演する際は他の団体や個人の介助者を紹介してもらう
環境整備	11 件	<ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気醸成：相談・活動しやすい環境づくり /人に迷惑をかけるようなことではなければどのような表現も許される場であるということを感じてもらえるよう、極力表現を制限しない/介助者も遠慮しないで付き添えるような心がけと言葉がけをし、反省会等にも参加してもらう ・スタッフの役割：障がい特性の理解/駅・会場のサポート誘導/同性支援（介助）/指導者と介助者を分離/メンバーの状態に気を配る。不安定なメンバーはさりげなく見守り、危険のないように配慮/過保護にならないようにする
専門家以外	10 件	<ul style="list-style-type: none"> ・手話のできるスタッフ ・ボランティア：ヘアメイクや衣装の着替えなど
スタッフの育成	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚等を身につけるために職員の研修会や学習会等への参加を徹底 ・指導者によって作成された療育プログラムを資格制度化し、資格取得者が指導・支援にあたる ・身体的精神的ハードルをとりぞき対応するアクセスコーディネーターと、障がいのある参加者のサポートをしながら一緒に表現活動を行うアカンパニストを育成
参加者の限定	2 件	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ、キャストとも手話のできる人材のみを採用 ・自力で稽古可能な人のみを募集

I Q14-4. その他

活動の活性化・多様化	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・意識の共有：常に前向きなポジティブなエネルギー/稽古が楽しみになるようにする ・内外からの参加の促進：参加しやすい時間・空間・規模・内容 ・表現・振付のアレンジ：表現者と鑑賞者の障がいに応じて
活動の体系化	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・礼儀作法の習得 ・演技の高度化に向け脳機能・身体機能を発達促進させるための基礎訓練 ・コミュニケーション手段の統一化：聴覚障がいの有無に関わらず手話を用いる

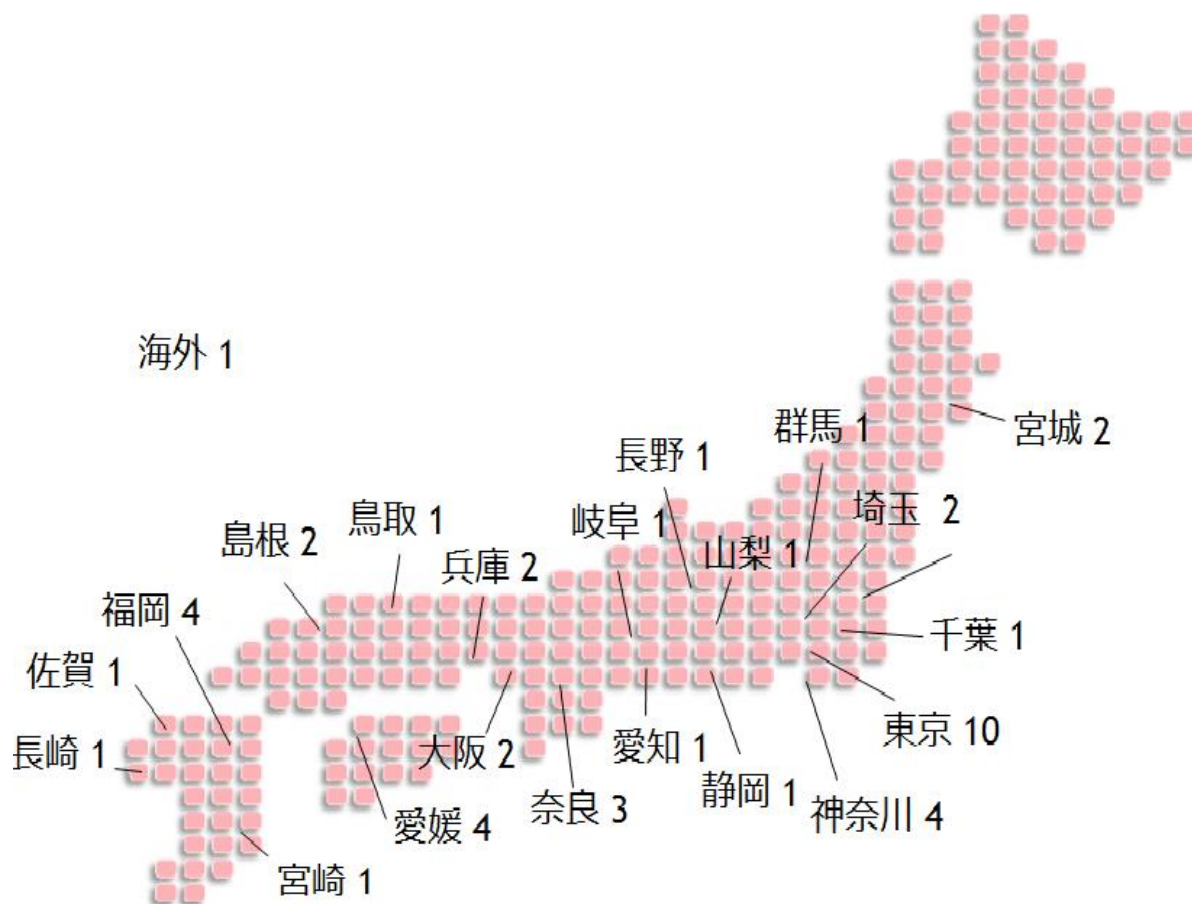
II 団体について

1 2. 団体の概要

II Q 1. 団体の運営形態は、次のいずれですか。

	件数	割合
任意団体	15	34.1%
その他の NPO 法人	11	25.0%
社会福祉法人	6	13.6%
公益財団法人	1	2.3%
認定 NPO 法人	1	2.3%
株式会社	1	2.3%
有限会社	1	2.3%
公益社団法人	0	0.0%
一般社団法人	0	0.0%
一般財団法人	0	0.0%
その他	8	18.2%

II Q3. 主たる活動を行う都道府県は、どこですか。（複数回答可）



地方別	件数
北海道	0
東北	2
関東	16
中部	5
近畿	6
中国	3
四国	4
九州	6
沖縄	0
全国	2

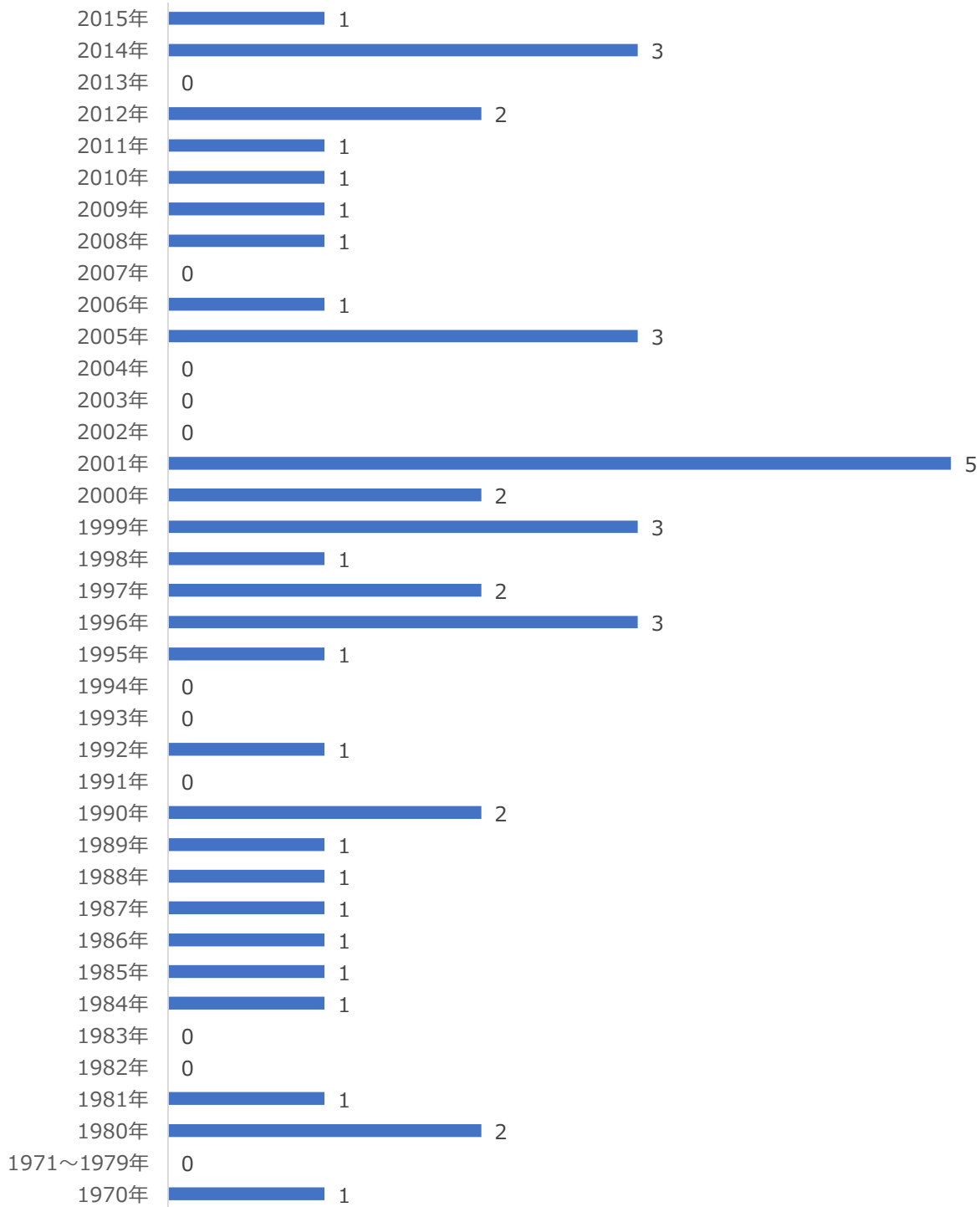
（複数回答の場合は初出の都道府県名で集計）

※報告書ダイジェスト版 P.12「（3）主たる活動を行う都道府県は、どこですか？」の記述について、以下のとおり訂正します。

誤 「九州に 7 件、近畿と中部に各 5 件」

正 「九州と近畿に各 6 件、中部に 5 件」

II Q 4 . 設立年を西暦でお答えください。



13. 活動目的

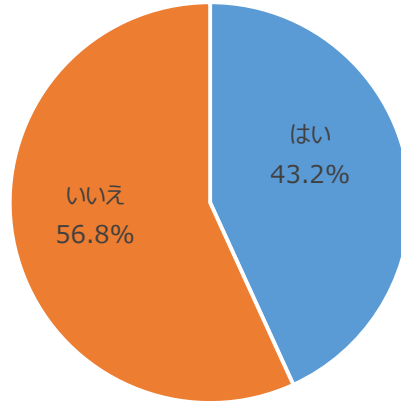
II Q5. 活動目的は何ですか。定款などがあれば、その通りに記述してください。（回答をキーワードで分類）

芸術 (37件)	主体者 (30件)	障がい者 (16件)	
		障がい者と非障がい者 (14件)	
	手段 (29件)	社会変革のため (13件)	<文化的な社会> ・より豊かな生活を享受できる環境をつくる ・芸術の自由な精神を礎に、個々人の特性を生かし自立した豊かな暮らしを地域社会で営むことに寄与する <社会的包摂> ・誰もが生き生きと輝いて生きていけるバリアフリーな成熟した地域社会づくりを目指す ・育みあう包容力のあるインクルーシブな社会の実現に寄与する ・誰もが居場所と役割を実感できる地域社会の実現に貢献する <協働> ・多様な分野の人々との協働により、商品開発、創造産業の支援を行い、市民の生きがいづくりに寄与する
		コミュニケーションのため (10件)	・ふれあいを通じた仲間づくり ・地域での交流、連帯をはかり、会員相互の親睦をはかる 地域社会の人々との交流を図る
		社会参加のため (8件)	・広く社会の人々に対し、勇気や感動をもたらすための活動を行い社会貢献につなげる ・積極的に外部での上演を行い、社会参加の機会を提供する
		学びのため (7件)	・社会経験の蓄積と自身の成長を促す ・障がいのある人との共生と協働を考え、理論と実践の双方向から学習する
		心身のため (4件)	・リハビリテーションの一環とする ・体力の維持/日常生活の充実
		目的 (20件)	芸術への挑戦 (10件)
	芸術の発信 (9件)		
	芸術の創造・向上 (8件)		
芸術の享受 (5件)			
福祉 (3件)	サービス (3件)		

14. 外部からの支援

II Q2. 貴団体の活動・運営に対する資金・その他の支援について教えてください。

II Q2-1. 外部団体から継続的に支援を受けていますか。



→ Q2-1 で「(1)はい」と答えた方

II Q2-2. その団体はどのような組織ですか。（複数回答可）

	件数	割合
民間企業や財団など	15	60.0%
国や地方自治体などの公的機関	10	40.0%
その他	0	0.0%

(有効回答数：19)

→ Q2-1 で「(1)はい」と答えた方

II Q2-3. その団体からどのような支援を受けていますか。（複数回答可）

	件数	割合
資金面の支援	14	46.7%
場所（活動場所や事務所など）の提供による支援	12	40.0%
人的支援（運営スタッフ、ボランティアなど含む）	4	13.3%
その他の支援	0	0.0%

(有効回答数：19)

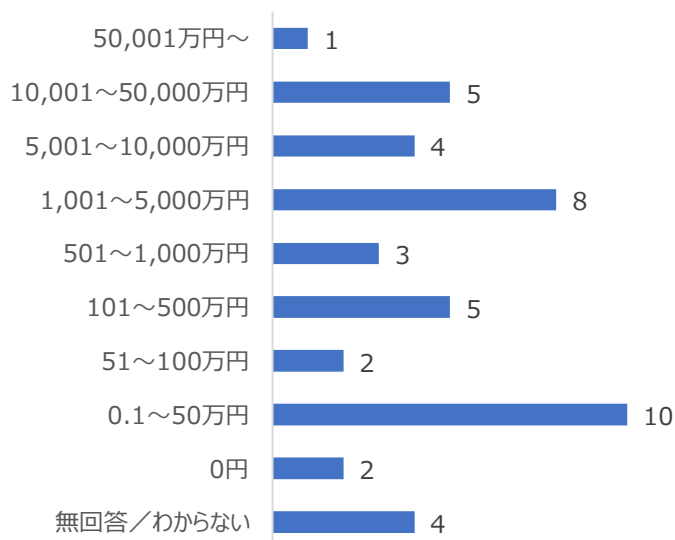
II Q2-4. 支援を受けるために、工夫していることはありますか。

（回答をキーワードで分類）

助成制度等の利用	13 件	<ul style="list-style-type: none"> ・助成申請：同時採択可能なものを探す/規約・会計の透明化/福祉・芸術・まちづくりと意義を書き分ける/目的を明確に伝える ・記録・報告：活動記録をきちんと残す/活動内容の報告 ・クラウドファンディング
団体内の取組み	11 件	<ul style="list-style-type: none"> ・会員：賛助会員の募集/公演・WS での募集/会報の定期送付/コンサートチケット割引制度 ・ボランティア活動：支援の呼びかけ ・社会常識・マナーの学習
外部との関係性	10 件	<ul style="list-style-type: none"> ・営業活動/福祉関係機関へのあいさつ回り ・公共行事・企業行事への参加/演奏依頼をすべて引き受けて縁をつなぐようにする ・参加希望者、家族、施設などの良好な人間関係の構築 ・Facebook 等で活動の報告とお礼の徹底/企画書や報告書を関係機関に送付
表現面の試み	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法：口話、手話、字幕の活用/参加者が理解しやすい表現を考える ・完成度を高められるよう、企画・内容のレベルアップを目指す
継続的な支援	3 件	

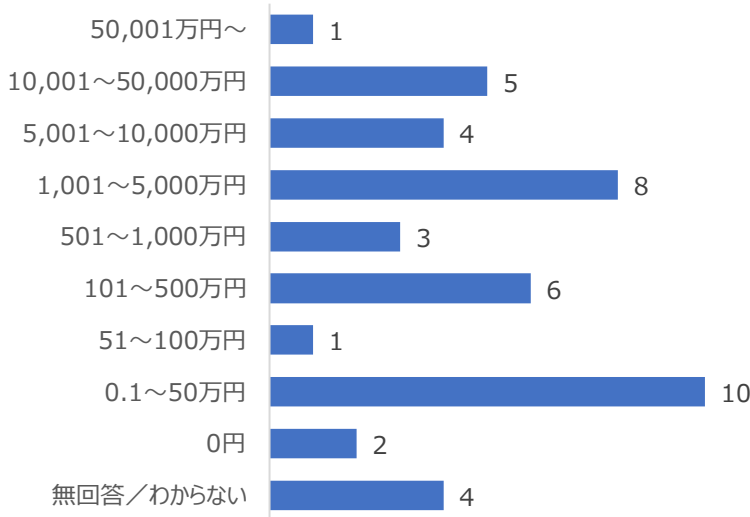
15. 団体の収支

II Q6-1. 2015 年度決算の収入を教えてください。



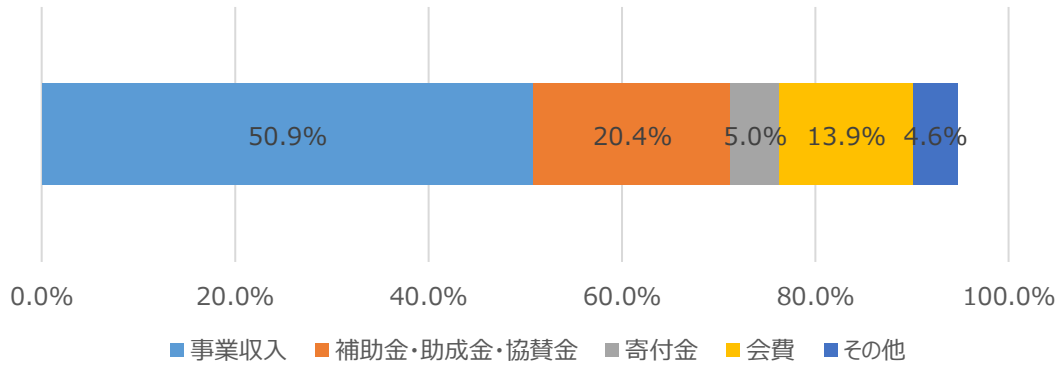
最少	0 万円
最多	59,000 万円
平均	5,208.60 万円
中央値	800 万円
標準偏差	11,493.57 万円

II Q6-2. 2015 年度決算の支出を教えてください。



最少	0 万円
最多	62,700 万円
平均	5,177.64 万円
中央値	750 万円
標準偏差	11,796.57 万円

II Q6-3. 収入のおおよその内訳



(有効回答数 : 38)

II Q6-4. 支出のおおよその内訳（事業費および管理費に占める人件費）

事業費

支出のうち 事業費	件数	割合
0%	4	10.5%
0.01～25%	2	5.3%
26～50%	2	5.3%
51～75%	3	7.9%
76%～	27	71.1%
無回答/ わからない	6	13.6%

事業費のうち 人件費	件数	割合
0%	13	29.5%
0.01～25%	6	13.6%
26～50%	6	13.6%
51～75%	7	15.9%
76%～	6	13.6%
無回答/ わからない	6	13.6%

	支出のうち 事業費	事業費のうち 人件費
最少	0.0%	0.0%
最多	100.0%	100.0%
平均	74.4%	33.4%
中央値	90.0%	30.0%
標準偏差	33.2%	33.2%

管理費

支出のうち 管理費	件数	割合	管理費のうち 人件費	件数	割合		支出のうち 管理費	管理費のうち 人件費
0%	11	25.0%	0%	24	54.5%	最少	0.0%	0.0%
0.01～25%	21	47.7%	0.01～25%	5	11.4%	最多	70.0%	81.0%
26～50%	4	9.1%	26～50%	4	9.1%	平均	12.8%	14.0%
51～75%	2	4.5%	51～75%	4	9.1%	中央値	10.0%	0.0%
76%～	0	0.0%	76%～	1	2.3%	標準偏差	16.0%	24.4%
無回答/ わからない	6	13.6%	無回答/ わからない	6	13.6%			

II Q6-5. 「(1)事業費」のうち、舞台芸術事業に関する支出のおおよその比率

	件数	割合		
0%	6	13.6%	最少	0.0%
0.01～25%	8	18.2%	最多	100.0%
26～50%	7	15.9%	平均	47.1%
51～75%	2	4.5%	中央値	50.0%
76%～	14	31.8%	標準偏差	39.8%

付記：長期にわたる活動歴を持つ団体の特徴

30年以上の活動歴を有する7団体に着目してみると、運営規模、活動形態、支援の有無などには共通点がなく、長期にわたる活動を可能にする条件は、さまざまであることがわかったが、一方で、以下のような傾向が見られた。

- ・社会福祉法人が2つ、公益財団法人と株式会社が各1つと、4団体が法人格を持つ。安定した組織形態が長期的活動を可能にする要素の一つと考えられる（回答者全体では、法人格を持つ団体は43.2%）。他方、3団体が任意団体であったという結果は、個人的な意思や意欲に依存するような一見不安定な形態であっても、長期的な活動継続は十分に可能ということを示している。
- ・年間上演回数は、回答者全体の平均で3回であったのに対し、7団体すべてで平均、またはそれを上回った。しかもそのうち4団体が11回以上で、単純計算でおおよそ月1回以上のペースで、コンスタントに作品を披露していることがわかった。同時に、無回答（1）を除く6団体で、回答者全体平均の50.5%を遥かに超える事業収入が得られている。上演回数の多いことが、安定的な事業収入の確保につながっているようである。
- ・4団体が、聴覚障がい者の参加者に特化して活動している。
- ・和太鼓の団体として回答を得た7団体のうち4団体が、1970～1980年代に設立されており、他のジャンルに比べて活動が長期にわたる傾向がみられる。